

フランティシェック・ノボトニー 無伴奏ヴァイオリンソナタの夕べ No.6

František Novotný

2023年6月13日(火)19:00(開場18:30)

会費: ¥3,000 / ¥2,000(ASK会員) 会場: ギャラリー島田 B1F *ご予約ください



Program

●ヨハン・ゼバスティアン・バッハ:無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第3番BWV1006
Johann Sebastian Bach ... Partita III, BWV 1006

Preludio

Loure

Gavotte en Rondeau

Menuet I / II

Bourrée

Gigue

●ニコロ・パガニーニ(ヴァーシャ・ブシホダ編):「うつろな心」のテーマによる序奏と変奏曲 op.38
Niccolo Paganini / arr. Vasa Příhoda ... Variations on a theme Nel cor più non mi sento

●ヤン・ノヴァーク:無伴奏ヴァイオリンソナタ「孤独な巡礼者」
Jan Novák ... Sonata Solis Fidibus
Allegro
Lento
Vivace
Grave. Con moto. Grave

フランティシェック・ノボトニー



1964年チェコのズノイモ生まれ。ブルノ音楽院でコトメル教授に、そしてヤナーチェク音楽アカデミーでスメイカル教授に学んだ。20以上のヴァイオリン・コンクールで優勝、入賞や特別賞に輝く。ノボトニーはイタリア放送協会(RAI)主催のコンクールの受賞者でもあり、ヴィエニヤフスキ国際コンクールのメダル保持者でもある。チェコ国内並びに海外の一流のオーケストラと共に演奏を重ね、ヨーロッパ、日本、アメリカの名高いホールに登場し、60曲以上のレパートリーを披露している。彼のレパートリーにはバーンスタイン、コルンゴールド、バーバー、コープランド、ベルクといった作曲家の珍しい曲や知られざる曲が含まれている。日本には伊藤ルミとのコンサート・ツアーのために定期的に訪れている。録音は多数あり、珍しいものとしてはプロッホのヴァイオリン曲全集がある。ヤナーチェク音楽アカデミーの主任教授を務め、またスロヴァキア共和国プラティスラヴァ音楽アカデミーの客員教授も務めている。チェコ共和国、フランス、日本、アメリカなどのマスタークラスでも指導し、「プラハの春2012」といった国際ヴァイオリンコンクールで審査員を務めている。2023年、(公財)神戸文化支援基金より「こぶし志縁賞」を授賞。<http://www.frantiseknovotny.com>

Message

親愛なる友人の皆様、新型コロナウイルス感染症が終息し、再びお会いできることを大変光栄に思います。今日の世界では、芸術と美を共有する瞬間の希少性がますます認識されつつあります。

今回のコンサートの3つの楽曲は、私たちをまったく異なる3つの音楽的世界へ連れて行ってくれるでしょう。

バロック、ロマン派、20世紀の各時代のヴァイオリンの名曲をご紹介します。

バロックの代表は、J.S.バッハの『パルティータ ホ長調』。この美しい循環的楽曲が、島田氏のギャラリーでの、バッハ無伴奏ヴァイオリン曲の全曲演奏の最後を飾ることになります。

パガニーニの華麗な『ネル・コル・ビウによる変奏曲』は、作曲スタイルの変容と楽器の妙技の目覚ましい発展を示すものです。これらの変奏曲は、伝説的なチェコのヴァイオリンの名手ヴァーシャ・ブシホダによってさらに難しいレベルに引き上げられ、それをアレンジすることで、最も技術的に難しい作品の一つになりました。

ヤン・ノヴァークは、ヤナーチェクやマルティヌーとともに、現代チェコ最大の作曲家の一人であると私は信じています。

『ソナタ・ソリス・ファイディブス』は、彼のヴァイオリンのための数少ない作品の1つです。

「孤独な巡礼者」という名前が示すように、深い芸術性を感じさせる作品です。その内面的で、ひときわ強い音楽的内容は、聴く人に知的で情感的な力強い体験をさせてくれるでしょう。

バッハの音楽の深みと秩序、パガニーニの変奏曲のヴァイオリンの華麗な妙技、そしてヤン・ノヴァークの内なる個人的な告白が、すべての人に心地よく豊かな時間をもたらしてくれると信じています。

フランティシェック・ノボトニー

Dear friends, it is a great honor and pleasure to meet you all again after the covid break! In today's world, we are becoming more and more aware of the rarity of shared moments with art and beauty that we can share.

The three compositions of today's concert will take us to three completely different musical worlds.

The concert program at the Shimada Gallery presents masterpieces of violin from the Baroque, Romanticism and 20th century periods.

The Baroque is represented by Johann Sebastian Bach and his Partita in E major. The performance of this beautiful cyclical composition will culminate in a complete performance of Bach's works for solo violin in the Mr. Shimada Gallery.

Paganini's brilliant variations "Nel cor più non mi sento" are evidence of both the transformation of compositional style and the extraordinary development of instrumental virtuosity. These demanding Paganini Variations were raised to an even more difficult level by the legendary Czech violin virtuoso Váša Příhoda. By modifying it, Variations has become one of the most technically difficult works on the edge of playing.

I believe that Jan Novák, together with Janáček and Martinů, is one of the greatest Czech modern composers.

The Sonata Solis Fidibus is one of his few works for violin.

As the name "The Lonely Pilgrim" suggests, it is a deep artistic statement. The inner and extraordinarily strong musical content of the work provides listeners with a strong intellectual and emotional experience.

I believe that the depth and order of Bach's music, the brilliant violin fireworks of Paganini's variations and the inner personal confession of Jan Novák will bring pleasant and enriching moments to everyone.

František Novotný